

Chino Cultural Community
茅野市公民館報



茅野市中央公民館 ☎72-3266
茅野市宮川 4 5 5 2-2

No.700 発行:長野県茅野市中央公民館 編集:広報専門委員会 印刷:株中央企画 発行日:2025年(令和7年)12月1日



ゆきどけ.....	1
公民館報 700 号を振り返る	2~3
公民館講座受講生募集・	
休館案内・諏訪ことば.....	4

初出場の茅野カンタービレ・ウィンズ (市民音楽祭 詳細は次号)

英文の頭文字を見ると、すべて同じなのにお気づきでしょうか。そう、今号はⅠⅡⅢⅣⅤでお馴染みのローマ数字で表すと【第DCC号】。そんな遊び心と詩的なフレーズの試行錯誤でイヤな気分を吹き飛ばせましたが、一つくらい皆さんの心にも響いたら嬉しいなあ。

(矢島 孝博)

- 【Dare, Care, Connect.】
—うごく、おもいやる、つないでゆく。】
- 【Don't Cancel Curiosity.】 —好奇心を手放さないで。】
- 【Don't Complain, Contribute.】 —嘆くより、動こう。】
- 【Don't Conform, Create.】 —型にハマるな。】
- 【Dip in, Click, Crazy about it.】
—ちょっとやってみたら、こんなにハマるなんて。】
- 【Dissolve, Capture, Continue.】
—溶かし流し、新たな価値を紡ぎ繋げる。】
- 【Drop resistance, Current flows, Catch serendipity.】
—受け入れ、風に任せ、思いがけない出会いを。】
- 【Drop by drop, Collect, Change dramatically.】
—ひとしずくを集めて、大河のように。】

うでしよう。



地域活動に携わっていると、なかなか協力を得られないことや丸投げされてイライラすることが少なくありません。そんなときは気分転換に、みんなが動いてくれそうなキャッチフレーズを考えてみるのはどうでしょう。

公民館報 700号を 振り返る



▲昭和33年市制施行祝賀パレード（ちの茅野町）



▲300号の頃（平成4年）



▲700号を迎えた現在の風景

茅野市公民館報は、本号で700号を迎えることができました。

公民館報は、茅野市の前身となる茅野町が誕生した昭和30年に「茅野町公民館報」として創刊して以来、市民の皆様、編集に携わっていただ

た歴代の広報専門委員のご協力のおかげをもちまして、70年に渡り刊行を続けています。

公民館は地域における生涯学習の拠点として、分館の活動支援に力を入れるとともに、社会教育関係団体等の自主的な学習グループの育成、支援と、学習成果を地域に還元する運動を展開してきました。

また、文化活動を推進する必要から、地域文化の掘り起こし事業として各地区で文化祭を実施、市内文化団体の参加を得て茅野市芸術文化協会の設立を支援しました。

公民館報も、学習情報のみならず、地域課題、市民の皆様の声などを募集して掲載してきました。特定の議題に対し、市民の皆さんと座談会を実施し、その内容を掲載したこともありま

記事として、昭和31年からは継続的に中学校統合問題について（当時3校案と4校案があった）、昭和43年には市議会議員定数削減問題について（この年の9月議会にて、議員数を30名から26名にすべく議員提案があった）、平成4年には学校週5日制導入につ

いてなど、当時市民の多くが関心を寄せていた事柄、地域課題等を取り上げてきました。

当時の公民館報を見返してみると、そのときどきの茅野市の世相を映す貴重な資料となつていきます。

平成、令和と年号が変わり、またコロナ禍を経て、地域が抱える課題のありよう、公民館をとりまく状況も変わってきました。

それでも、生涯学習の神髄（しんずい）は変わりません。

平成24年に開催した茅野市

公民館分館職員研修会にて講演いただいた松田道雄先生からは、公民館は「何でも生み出し分かち合う、豊かさの場」だとお話いただきました。

暮らしの中で楽しみを生み出すことが、人生の学び舎になります。それを次の時代に伝えていけば、いろいろなことで役立ち、生きていくさまざまな栄養となります。

公民館、公民館報はこれからも市民の皆様に取り添いながら、「幸せを実現できるまち」を目指します。

写真と年表で振り返る公民館のあゆみ



▲地域の活動も活発に
金沢地区ママさんバレーボール（昭和44年）



▲旧中央公民館（昭和40年代）



▲視聴覚教育として16ミリ映写機講習が盛んでした（昭和52年）

公民館と公民館報のあゆみ

昭和30年	一町八ヶ村合併して茅野町誕生。公民館発足、中央公民館・9地区館、64分館。「茅野町公民館報」として第一号発行
昭和33年	市制施行、中央公民館を宮川出張所に設置
昭和34年	行政広報と分離して独立した館報となる、「ゆきどけ」連載開始
昭和39年	第一回市民文化祭開催
昭和44年	特急「あずさ」茅野駅に 通年停車
昭和46年	第一回分館報コンクール 第一回市民祭開催

令和4年	音楽祭・芸能祭再開
令和2年	新型コロナウイルスにより臨時休館、芸術祭等中止
平成30年	茅野市中央公民館に 茅野市文化センターから 茅野市文化センター竣工 （1、2階市公民館・3階 勤労青少年ホーム）
平成26年	土偶「仮面の女神」国宝に、 分館に「お宝マップ」提唱
平成17年	茅野市文化センターから 茅野市中央公民館に 音楽祭・芸能祭再開
平成15年	公民館報フルカラーに 新しくなった市民館で音 楽祭・芸能祭開催
平成10年	長野オリンピック 長野オリピック
平成7年	土偶「縄文のビーナス」 国宝に
昭和55年	優良公民館文部大臣表彰 生涯学習都市宣言
昭和63年	茅野市芸術文化協会発足 人口5万人となる
昭和53年	茅野市文化センター竣工 （1、2階市公民館・3階 勤労青少年ホーム）
昭和51年	第一回茅野どんぼん
昭和48年	中央高齢者教室スタート （現在の茅野市高齢者大学）
昭和50年	人口4万人となる、市民 祭を芸術祭と市民祭に分 けて実施



▲コロナ対策として席制限等をして実施した芸能祭
（令和4年）



▲旧市民会館での音楽祭（平成12年）

公民館講座受講生募集

(キャンセルする場合はできるだけ早めに茅野市中央公民館担当までお申し出ください)

※ 講座を受講するにあたり、手話通訳などを希望される方は申込時にお知らせください。

和の伝統文化講座（俳句編）

「俳句って楽しそうだけどルールが難しそう…」なんて感じたことはありませんか？

でも、そのルールを知ることとおもしろさが増していく、そんな魅力も持ち合わせています。

今回は初心者向けの俳句の作法を学びながら、ことばの奥深さに触れていきます。日常のかけがえのない一瞬の積み重ねを、一緒に五七五のリズムに刻んでいきましょう。

新年を迎え、新しいことに挑戦してみたい方、ぜひお待ちしております♪

日 時 令和 8 年 1 月 13 日、20 日、27 日、2 月 3 日（火曜日 全 4 回）
午前 9 時 30 分から 11 時 30 分

会 場 茅野市中央公民館 1 階 第 1 会議室

講 師 矢崎 すみ子 先生（沖南信濃支部俳句会）

内 容 初心者向けの俳句の基礎を学んだり、
皆が作った句の講評を行い、俳句を楽しみます

費 用 1,000 円 **定 員** 16 名

持 ち 物 筆記用具（お持ちの方は、歳時記・電子辞書も）

受講資格 市内在住、在勤、在学者

受付開始

12 月 2 日（火）
午前 10 時～
（電話または
インターネット
先着順）



▲ 申込フォーム

昨年の様子



お問い合わせ・申込先 茅野市中央公民館 ☎ 72-3266（窓口受付は行いません）

館内清掃の案内と年末年始休館のお知らせ



館内清掃のため、茅野市中央公民館は、令和 7 年 12 月 25・26 日（木・金）の午前 9 時から午後 5 時まで使用ができません。

また、令和 7 年 12 月 29 日（月）～令和 8 年 1 月 3 日（土）の期間は、年末年始の休館となります。令和 8 年 1 月 4 日（日）からは通常通り開館します。



知らない・使わないという人が
約 66% という結果
に。
「宴会の司会を
したら使うかも」
という人も。
忘年会シーズン、
あるをつくしま
しょう！
諏訪ことば
知ってる？
使う？
アンケート
実施中



残さず食べる

出されたものは
あるをつくす
（出されたものは
残さず食べる）



ある
つくす

知らないかた！
諏訪ことば
すわ

協力：八ヶ岳総合博物館、
国立国語研究所
「市民科学」プロジェクト